



工藤 眞巳 議員

中学校部活動の地域展開と 子どもたちの体力向上策を問う



中学校部活動の地域展開と 子どもたちの体力向上策について

工藤議員

部活動は単なるスポーツの場ではなく、一生に一度の心身を育てる貴重な機会である。国が進める地域移行（地域展開）にあたり、現場で顕著となっている子どもたちの体力低下を食い止め、保護者の負担を軽減しながら、南阿蘇ならではの持続可能な活動環境を構築すべきである。

地域移行に向けた具体的なロードマップと、学校・指導者間の連携体制をどう構築するか問う。

教育長

令和8年度から「改革実行期間」とし、令和10年度までの休日完全移行を目指す。来年度には「南阿蘇中学校地域クラブ」を立ち上げ、地域全体で支える体制を構築する。

工藤議員

小学校の社会体育移行後の加入率低下や児童の体力低下をどう分析し、改善に向けた専門的なトレーニングの継続、ニーズ調査を行う考えがあるか問う。

教育長

専門講師によるSAQトレーニング等の授業導入を継続し、基礎体力の維持向上を図る。児童の加入状況やニーズを精査し、多様な活動が展開できる環境を整える。

工藤議員

保護者の大きな障壁となっている送迎負担に対し、巡回バスの運行など村独自の柔軟な支援策を検討できないか問う。

教育長

現在はスクールバスや社協バスの活用で負担増を抑えているが、将来的には受け皿団体が主体的に送迎できる体制構築へ向け、必要な支援策を模索する。

工藤議員

受け皿となる「クラブ南阿蘇」の事務局機能強化、専門人材の配置、指導者の処遇改善や研修体制の計画を問う。

「クラブ南阿蘇」を核とした体制整備へ

教育長

同クラブを地域展開の主軸と位置づけ、専門人材の配置や指導者の処遇改善、ハラスメント防止を含む研修体制の充実について、クラブ側と緊密に協議を進める。

工藤議員

放課後活動助成金について、中学卒業までの継続的な補助や対象の拡充を行う考えはないか。

教育長

放課後活動助成金は、創設から8年が経過し見直しが必要と認識している。安定的な活動基盤の構築と保護者負担軽減のため、継続補助への転換を含め方向性を検討していく。

村長

子どもたちの体力低下には強い危機感を持っており、ふるさと納税を活用したマイクロバスの更新や、国の補助金等を活用し、指導環境の充実と既存施設の有効活用（リニューアル）を推進する。

工藤議員

学校でのトラブルを地域クラブに持ち込まないよう、また指導方針に食い違いが出ないように、教育委員会が学校と指導者の「架け渡し役」を徹底すべきではないか。

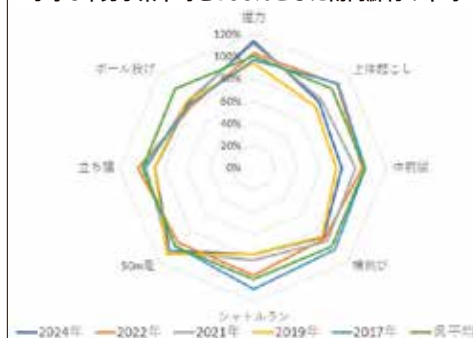
教育長

多感な時期である生徒に丁寧に配慮し、平日・休日を通した一貫した指導体制を教育委員会が主体となって築いていく。

工藤議員

部活動を通じて、体力だけでなく心も育つ環境を守ることは村の責務である。南阿蘇村で部活動をしてよかったと、子どもたち一人一人が思える地域展開を強く願う。

小学6年男子県平均を100%とした南阿蘇村の平均



小学6年女子県平均を100%とした南阿蘇村の平均

